

会 議 議 事 録

会 議 名	平成27年度 第2回 学校関係者評価委員会	専門学校 東京工科自動車大学校
開催日時	平成27年11月4日（水） 18時～20時	
会 場	専門学校 東京工科自動車大学校 123教室	
参 加 者	委員	7人 (参加者) 浅古純一・及川順一郎・田中洋子 沼田 勇・大石安孝・佐々木洋文 (欠席者) 齋藤昭男
	事務局	3人 佐藤康夫・山口泰之・戸辺武
会 議 録	<p>1. 校長挨拶 佐藤校長より、本学校関係者評価委員会開催に向けての挨拶が話された。</p> <p>2. 委員会成立の確認 事務局（山口副校長）より会則第5条の2に基づき、出席者が委員総数の過半の出席を満たしているため成立していることを確認した。</p> <p>3. 本日の議長について 出席者全員出席により、会議が成立する事が事務局より報告され、議長に委員長の浅古氏、書記に及川氏が選任された。</p> <p>4. 議事</p> <p>○第1号議案</p> <p>・前回議事録確認 【資料A】 事務局（戸辺）より、資料A（平成27年度第1回学校関係者評価委員会会議議事録）に沿って前回議事録についての概要説明及び確認が行われた。</p> <p>○第2号議案 【資料B】</p> <p>・公開情報更新について [資料] 平成27年度公開情報について事務局（山口副校長）が概要の説明・確認がなされた。</p> <p>・本年度8月に情報更新実施済みについて</p> <p>・更新履歴内容の説明</p>	

○第3号議案 【資料B・C】

- ・平成27年度の取り組みに関する進捗状況

平成27年度の取り組みに関する進捗状況に関して事務局(佐藤校長・山口副校長)より以下の説明がなされた。

①就職

a.卒業年度生の就職内定率

自動車整備科(2年生):8月末76%(目標80%)、留学生のみ
12月末100%を目指している

エンジンメンテナンス科(2年生):8月末79%、(目標80%)、現在82%

12月末90%目標なのは、レースメカニック志望の学生の
内定が来年2月頃のため

1級自動車整備科(4年生):8月末92%(目標100%)、本日付け100%

b.次年度就職学生に対する取り組み

- ・企業研修:本年度の実績及び実施予定の研修の報告
- ・就職プログラム:本年度の実績及び実施予定の内容の報告

②国家試験対策

- ・ガス溶接、危険物乙種4類、ソーシャル検定、二級2輪自動車整備士資格
取得状況について:取得率について留学生増加の影響もでている。

及川:先日の学園祭に参加してみて、留学生が増えている実感があるが学校としてどのように受け入れているのか。

山口:東南アジアからの入学生がかなり増えてきている。入試を実施して日本語能力や学力を確認して入学させている。留学生は日本語学校の勉強を経て入学している。授業シートを利用して勉強するように指導している。

今後、放課後等を利用して日本語を学ばせることも検討している。

佐藤:留学生の入学希望者が増加しているのと、日本人の入学生が減ってきている
当校では30年前から留学生を受け入れている。

留学生の増加については新しい対応を始めている。

佐々木:以前初めて留学生に内定を出したのだが、就職する際のビザ取得について

入管と何どもやり取りをした経緯がある。入学時に就職ができるかどうかの確認はしているか。

佐藤：以前は留学生の就職について、「技能」と「技術」について、国家試験では「技能検定」になるので、「技能」でのビザになるから、本国での高度な学歴等がないと通らなかったが、そのままでは留学生の就職の機会が得られないため、業界で働きかけをしたこともあって現在は自動車整備士2級以上取得した者には「技術」ビザを与えることになっている。

佐々木：受ける学生・採用する企業・送り出す学校がよく連携していく必要があると思う

佐藤：担当官によっても扱いが変わったりするのでこれで大丈夫というわけにはいかないが、経験として大まかにこれでいけるという内容を公開していく。

佐々木：こちらの実績としてはどういうところに就職しているか。

佐藤：トヨタ、マツダ等の企業さんに決まっている。

昔からすると2級整備士以上の受入れは変わっているのと、今後はこちらから留学生の就職についての採用の手引きのようなものを企業の協力を得てまとめ、情報を公開していく。

沼田：留学生は日本で就職したい、企業側も採用したいという思惑がある。

しかし企業側としても「保証人」の問題があるので、それがネックになっている。

浅古：個人番号の配布等も始まったのでここが変わりどころではないか。学校として

しっかりやっていたら、留学生の卒業生の口コミで良い情報が流れるのではないか

佐藤：質の高い留学生を入学させ、就職させる目標でいる。

田中：学園祭でも多くの留学生と接し、東南アジアの方が多いなと感じた。

町内在住の方においても日本の文化（お餅つき等）にも興味を持っている様子が見え

③平成27年学校関係者評価委員会指摘事項

1. 他校比較による東京工科の方向性（佐々木委員）

- ・事務局（佐藤校長）より、他校との比較票【資料C】について説明がなされた。

佐藤：他校と比較すると地味ではあるがしっかりとした教育を行なっていく。今後は第三者評価についてもしっかりと実施していく予定である。

東京工科グループとして世田谷校、品川校とも併せて特徴ある学科を押しながら

浅古：建築科やインテリア科の授業を受けて自動車以外の資格も取れるようにすると学生からもさらに良い評価を受けるのではないかと。

現在は大学と高校との間でも単位取得について提携がされているようである。

小山学園としての強みを出していくことができればよいのではないかと。

佐藤：現在テクニカルカレッジでは科を横断して授業を行う「リアルジョブプロジェクト」を実施している。今後さらに自動車系も含めたものも検討したい。

佐々木：ただ、整備士資格取得のための必要時間数の制約があるので、学校経営上かなり難しいのではないかと。

佐藤：大学と同様に他の知見を増やすためのカリキュラムを増やそうと思うと時間数の問題がある。また国家試験を合格させるための基本の勉強もしっかりやらなくてはならない。

佐々木：今後はメーカー系は自社の車を使っていく。世田谷校のMBコース、品川校のHDコースなどの即戦力となる学生を育てるかのどちらかになっていくのではないかと。ここに入学すれば必ず就職ができるというのがあればよいのではないかと。

佐藤：学生が就職した際に、企業さんの技術と大きなギャップがあると困るのでそういう学生は出したくない
当学園の教育のベースは2級整備士なので、そこをしっかりやっていく。

佐々木：受験者に対してわくわくさせるようなものも必要なのではないかと。

3. 熱い教員を育てるための研修（浅古委員長）

- ・事務局（佐藤校長）より、教員研修の内容について【資料B】に沿って説明がなされた

浅古：自分の母校で先生に対して講師という立場で接することができたのは非常にありがたいことであった。成長角度を上げていくためには、心の部分が大きい。
そこを育てるための話しをさせていただいた。生徒の心を汲み取るためには先生の心が大きく開けていないといけない。先生は生徒の心に「アジャスト」することが大切であると考えているので、それを伝えさせていただいた。

佐藤：教員研修には様々な研修が必要だが、浅古委員から「心」を育てる研修も必要なのではないかという意見をいただいて実施した。非常にためになった研修なので今後新人だ

けでなく中堅の先生も含めて実施していきたいと考えている。

佐々木：日本人は上から目線での教育だと思う。リーダーを育てるためには、その気にさせていくことが重要。

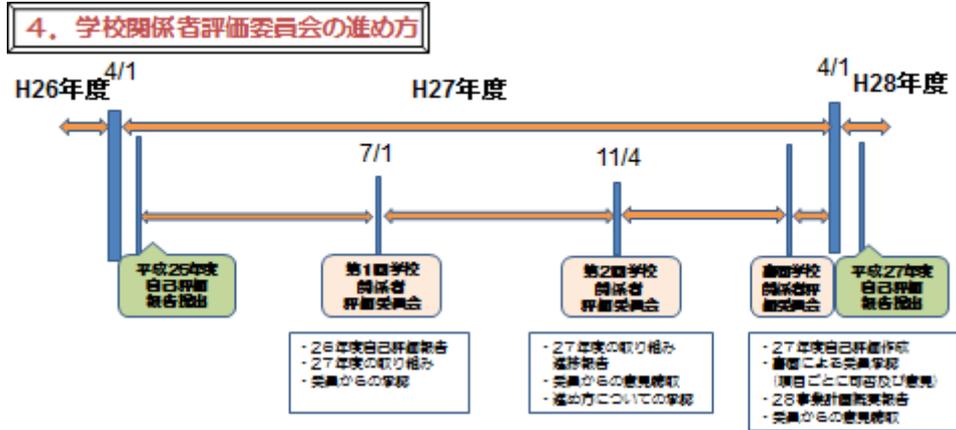
「リーダーシップ」とは上から目線で人を動かすことと認識している日本人が多いが、自ら動こうとするモチベーションを与えることと認識すべき。

○第4号議案 【資料B】

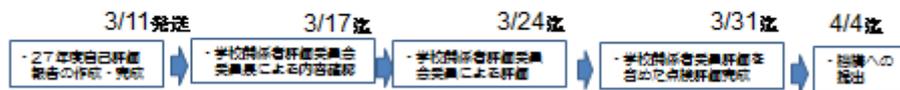
- ・学校関係者評価委員会の進め方

学校関係者評価委員会の進め方について事務局(山口副校長)より以下の説明がなされた。

- ・H27自己評価(書面学校関係者評価委員会含む)のスケジュールの説明【資料B】



●H27自己評価(書面学校関係者評価委員会含む)のスケジュール



○第5号議案

- ・その他

今後、学内の自己評価委員会の代表として学校側メンバーが学校関係者評価委員会に参加しているという立場について了承いただきたい。

全員：了承する。

その後、企業セミナー及びインターンシップ、地域活動への参加状況について事務局(山口副校長)より、【資料B】に沿って説明がなされた。

○その他

田中：いま町内会の青年部・婦人部ともにやる気まんまんであり、たくさんの学生さんを送っていただいて感謝している。若い人が育っているのが楽しみである。学校の活動を見させていただいて地域にとってもとても励みになる。

及川：2級を取ることが達成目標であるというのが今だにあまり変わっていないのが問題なのではないか。試験もそうだが企業も変わる必要があるのでは。新しいものを企業側と提携して学生に与え、幅広い学びを与えられれば良いのではないか。

大石：学園祭でタイヤローテーションでかなり盛り上がっていた。盛り上がっているのはよいがもう少し安全作業について留意して欲しいと思った。
リーダーシップについての研修実施について、今の新入社員たちにとって非常に重要だと感じており、嬉しく思った。

沼田：浅古委員長のような研修を続けていくことによって学校のレベルが上がっていくのではないか。
高校生はわくわくしているので、いろんな情報を与えるのが良い。
産業能率大学を卒業をしている学校もあるようだが・・・。

佐藤：4年制学科は高度専門士として大卒と同じものになるので、当校ではやっていない。
2+2の学科運営で、専門士の上にカリキュラムを組んで大卒の資格を取らせるケースがある。

佐々木：整備振興会が地域の一般の方々に定期点検の重要性を教える講習を当社で実施した。整備会社は整備士を欲しがっているので、地元の振興会との企業とも連携を深めていただきたい。

佐藤：以前から振興会との繋がりを持っていて、インターンシップも実施させていただいて連携をしている。

佐藤：今後は自己評価委員会の代表として事務局が参加しているという立場について了承いただきたい。

全員：了承する。

5. 事務連絡（事務局）

- ・事務局（山口副校長）より以下の事務連絡があった。
- ・プロジェクトセミナー成果発表会の案内(12月4日)
- ・次回日程の確認

平成28年度 第1回学校関係者評価委員会開催日程（平成28年7月予定）の確認がなされ、委員全員の確認を得た。

以上

会議風景

